

コロナウイルスがもたらした「ことばの変化」

2月時点ではまだ遠いどこかの国の話だったコロナウイルスが瞬く間に広がって今や世界的大流行を起こしています。その期間を数えると約3ヶ月ですが、今日は、この3ヶ月で世界各地の言語に起きた”変化”を皆さんにお伝えします。“たった3ヶ月経つだけで言葉はこれだけ変わるんだ！”という気持ちに皆さんがなれたら嬉しいです。

1、コロナウイルスが造った英単語たち

この3ヶ月で以下のような単語がネイティブスピーカーの間で盛んに使われるようになりました。中にはもはや流行語のレベルを超えて、日常の英単語レベルにまで定着してしまったものも！

●quaranteen

“病気予防で隔離する”という意味の quarantine という単語と、“10代”を意味する teen という単語を掛け合わせてできた quaranteen。ちなみに teen という単語は、日本語でもすでに”10代”という意味で広がっていますが、正式には”13-19歳”を指します。”10-12歳”の世代は preteen というので、正式には teen が”10代”という意味は間違いです。quaranteen は今年13歳以上19歳未満の誕生日迎える子供たちを指す単語。2033年この世代が20歳を迎えたときどんな generation になるのだろうという英語ネイティブ社会の疑問からこの単語がニュースで流行り始めました。

●covidivorce

Covid はコロナウイルスの英語名、divorce は” 離婚” という意味の英単語。日本でもコロナ離婚という語が最近になって使われ始めましたが、もとは英語から来ました。海外では、外出自粛が始まり、家に夫婦がいる時間が増えたことによって離婚率が増加しています。

●covidiot

Covid と、” 馬鹿げた” を意味する idiot を合わせた英単語。” 店のマスクを全部買いあげる”、” コロナビールでパーティをして3密を作る”、” 海なら大丈夫という軽いノリでフロリダのビーチに押し寄せる” など、自分のことだけしか考えない行動をする人がアメリカでも多発。そこからアメリカで生まれた単語です。

●pandemic nice guys

Pandemic は” 大流行”、nice guy は” (内面が)いい人” を意味します。日本語でナイスガイというイケメンを指すイメージだと思いますが、英語での正しい意味は” (優しく親切、フレンドリーで内面が)いい人” になります。イケメンだからといって nice guy とはならないわけですね。さて、pandemic nice guys というのは、コロナウイルスの影響で、神経質になり、逆に行き過ぎなほど” いい人” が世界各地で見られはじめたということです。例えば、車から知らない歩行者に笑顔で手を振ったり、道端のパトロール警察官に” ありがとう!” と言ったりする人なんかが増えているようです。そういった人たちが” 大流行” しているということです。

2、stay home ? stay at home ?

老若男女問わず、今や日本人みんなにとっての当たり前 “stay home”。でもニュースやテレビによっては” stay at home” って言っていませんか？どっちが正しいのでしょうか？

stay home と stay at home、コロナウイルスが流行する前は、日本人の皆さんは、中学の英語のテスト以来あまり使ったことがないのではないのでしょうか？高校英語では、たまに英訳問題の中に” 家にいる” という文言が含まれていて、ある人は stay home と解答用紙に書くし、ある人は stay at home と書きます。どちらが正しいのでしょうか…？

正解は……両方です！これはアメリカ英語が stay home 、イギリス英語が stay at home という方言差による違いでしかありません。もちろん広島の人でも” なんでやねん” ということがごく稀にあるように、アメリカ人でも全員が stay home とは限らず、stay at home という人もいますので、これはいわゆる標準アメリカ英語と標準イギリス英語に限った話です。

例えば、アメリカ CDC（疾病予防管理センター）のウェブサイトを見ると、Stay home as much as possible” と書かれていますが、イギリス政府の公式サイトでは、見出しに “Stay at home” と書かれています。コロナウイルスに関してエリザベス女王が演説しているのなんかを YouTube で見てみると確かに stay at home と言います。

では、皆さんはどちらを使いますか？おそらくほぼ全員 stay home だと思います。それほど日本はアメリカ英語に影響を受けているのですね。ちなみに過去イギリスの植民地だったニュージーランドなんかに行くとみんな stay at home って言っていたりしますよ。

3、”不要不急”は英語で”nonessential”なのだけでも…

日本でも最近では聞かない日がない”不要不急”の四文字。英語では”nonessential”といいます。essentialは皆さんもターゲットで見たことがあるかな？その否定ですね。

このessentialの否定には実は”inessential”や”unessential”という単語もあります。あまり聞いたことないですよ？(先生も実際には研究書以外で見たことはないです。いわゆる古い堅い表現ですね)。ただ最近では、これらの語の使用も増えてきているよう。”古い堅い表現”が“よく使う表現”になる日も近いかも。

4、social distanceが動詞になった

こんな英文があります。

The government is telling people they must social distance, but that's a luxury. (CNN Politics, 2020/4/18)

政府は国民へ、ソーシャルディスタンスを取るよう呼びかけたが、そんなの贅沢な要望(で無駄)だった。

I wish I could social distance me from the fridge! (Twitter)

冷蔵庫からソーシャルディスタンスが取ればいいのに(家にこもって食べてばかりいる状況とかけて)

social distance という単語は、社会的距離という意味。どこからどう見ても名詞なのに動詞として使っているこの二文は何なのでしょう？

“品詞転換”というこの現象、英語の品詞が本来の品詞から転換して新たな品詞として使われるようになることをいいます。実は何かの”流行”が起こるとよく起きるのです。

例えば

I line you. (あなたにLINEします)

I will google now. (今からググります)

などなど。何かあれば起こる品詞転換。こうして皆、文法が嫌いになるのです。

5、マスクの masque が”マスク”になったフランス語

あまり知られてませんが、ヨーロッパ人はマスクというものをあまりしません。そもそもヨーロッパ人は病に対する認識が日本人と大きく異なり、風邪をひいても気合い、熱が出てもまあどうにかなる、インフルエンザでも薬飲んでも明日には治ってるでしょ、な風潮があります。だからもちろん予防のためにマスクをするなんか考えられないわけです(道端でマスクしてたら、”あなた新型コロナウイルスにでも感染したの!?なんでここにいるの!”みたいな目で見られます)

そんなこんなで、ヨーロッパ言語では”マスク”というと基本的に別の意味になります。

それがフランスでは変わってしまいました。フランス語で masque という、マスクではなく、”女性のお肌すべすべ顔パック”を指します。だから masque を医療用マスクと認識する人なんて誰もいません。でも流石にフランス人も皆マスクをし始めて、今では”masque”がマスクになった

わけです。こうして、辞書の単語の意味欄の2番目、3番目の意味って増えていくんですよ
一。何か起これば単語の意味は増えるから、単語の意味の数って正の無限大に発散するんですか
ねー？それともどっかで変曲点が存在するんですかねー？(理系数Ⅲの皆さんへのつぶやき)。言
葉は数学でも考察できます。

6、”コロナ太り”を表わすファッチンジャ (확찐자)

美容の国、韓国では、コロナ感染者=「ファッジンジャ (확찐자)」と、太る=「サリチンダ
(살이 찐다)」を掛け合わせたファッチンジャ (확찐자) の感染者報告がなされています。主な
感染経路は”ふとん→冷蔵庫→ソファ→冷蔵庫→テレビとコタツ→冷蔵庫”らしいです。

日本でも”コロナ太り”という言葉はニュースでちらほら。でもコロナ太りという単語があるの
って日本と韓国くらいなんですよね。言葉には美容の考え方の違いも大きく変わってくるので
す。

7、コロナ禍って何？

“コロナなべ”ではないですよ。”コロナか”と読みます。ニュースでよく出てますよね？

禍は、”わざわい”とも読みます。古事記によく出てくる印象ですが、先生の記憶では、高校の
時に古典で教えてもらった大鏡に出てきたのが初めての出会いかな。

この” わざわい”、” 災い”とは違うんですかねー？って思った人、いませんか？この禍は、” 人の努力でなんとかなるわざわい” という意味です。災いは、人ではどうにもなりません。” 皆んなで頑張っ、コロナ禍を乗り越えよう！” という日本人の思いが言葉に現れた例なのかなー と思ったり。

いかがでしたか？

たった三か月でも” 何か大きなこと” が起こると、言葉も大きく変わります。逆に言えば、言葉 というものは皆さんが思っている以上に変わりやすいものなのです。だからこそ、” こうである べきだ！” という” 規範的な” 言葉の捉え方は捨て、” 実際の言葉ってこうだよな” という” 記 述的な” 言葉の捉え方をする必要があります。皆さんが、” こうじゃないと×” と覚えてきた 英文法も本当に×なんですか？日浦前校長先生もおっしゃられてましたように、言葉に対し ても” 当たり前を疑う” ことをしてほしいと思います。